

阿南町社会福祉協議会

第100号

まめだかな？

長野県下伊那郡阿南町西條709 「おげんきサルビアの郷」内
TEL(0260)22-3151

まめな人達

No.28

このコーナーでは、阿南町で
元気に過ごしている
「まめな人達」を紹介します。

かつて阿南町に、パン屋さんが四店舗ありました。今回ご登場いただくまめな人達は、各店を営んでおられた四名の方です。しかも、年齢は全員九十歳以上のおばあちゃん達です。どの方とも、取材のお願いを快くお受けいただき、お伺いした折のお元気づきに感謝しました。それでは、お一人ずつご紹介します。



清川よし子さん(九十五歳)、戦後まもなくご主人と伴に御供の自宅にて、『清川』という屋号のパン屋を始めました。「戦争中、子供達に食べさせ

るものが無く、大変悲しい思いをした」経験から、パン屋を始めたそうです。最初は土窯に薪焚きで、原料の小麦は近隣の農家から粒のまま譲ってもらい、それを粉に挽いてからパン作りに取りかかったそうです。やがて機械を導入し職人を雇ってはみたものの、職人への払いをするのが大変で、ご夫婦だけで三十余年の長きにわたり続けて来ました。午前三時に生地をこね、五時に本練り、八時に成型と朝早くから起きて、わき目も振らずパン作りに専念してきました。途中から阿南高校の購買にて、コッペパンや菓子パンを販売するようになり、それが定着して地域の方々からも愛されるパン屋になったそうです。ちなみに清川さんは、『この広報誌に時たま掲載される『よし子の昔話』の作者さんでもあります。



原あやさん(九十二歳)、屋号は『千里屋』、現在国道一五号線の早稲田信号機の辺りにお店を構えていました。主に

給食用コッペパンを毎日数百個余りも製造し、遠くは泰阜村農協や新野方面へも配達していました。ご主人は、飯田市の菓子屋に勤めた際にパン焼きの技術を習得し、その後農協勤務を経て、千里屋を開業したそうです。小麦粉は、飯田の大きなパン屋から取り寄せ、職人も常時一名雇って、三十九年余りひたすら学校給食用パン専門で製造をしてきました。「私は、主人の手伝いをしていただけだから」と話されましたが、四人の子供を育てながら、毎日のパン作りは大変ご苦労のあったことだと思えます。それでも、「安定した収入が見込めて有り難かった」そうです。



村松一子さん(九十一歳)、新野の『つるや』という和菓子店のおばあちゃんです。昔からまんじゅうや落雁など和菓子専門に作っていました。が、戦後学校の恩師に頼まれて、学校の給食のパンを作ることにしました。新野の小・中学校をはじめ、売木や向方(天龍村)の学校へも配達していました。コッペ

平成23年11月 1日

社協報 まめだかな？ 2

パンを木箱へ縦に詰めて、リヤカーで運んだそうです。小麦粉は県から配給されて、決められた配合で作るコッペパンは、決しておいしいものではなく、和菓子製造と合わせて五人の職人を住み込みで雇ったのパン作りは、手がかかる割には儲からない仕事だったと、当手を振り返っていました。取材時に同席していた息子さんが、「まずいコッペパンも、冬ストーブの煙突に押し付けて焼くとおいしくなった」と言っていたのは、おかしかったです。



村松フサエさん(九十一歳)、深見から御供へ下る県道沿い、中谷に位置するところに『富士屋』という屋号でパン屋を営んでいました。ご主人と二人で始めて、あんぱんやジャムパンなどの菓子パン中心で、『フジパン』の愛称で通学時の阿南高校生などがよく買ってくれたそうです。前日に生地をこねて、翌朝成型して焼いていた。沢山作りはしませんでした。「毎日売り切れるのが嬉しかった」と、目尻を下げて微笑むお顔が印象的でした。こじんまりとではあるけれど、地域の方々にも利用されて、パン作りを楽しまれたそうです。

四名の方々のお話をうかがうに付け、戦後何も無い時代に、子供達のためを思っってパンを作り続けた気概と努力は、我々も見習わなければいけないと思いました。それぞれの方とも並大抵のご苦労では無かったかと思いますが、昔を思い起こしながら語られる姿は、そんなことを微塵も感じさせない慈愛に満ちた瞳をしておられました。貴重なお話をしていただき、誠に有難うございました。(井澤 博之)

グループホームまめだかな

まめだより

こんにちは、まめだかなです。去る九月二十三日(土)、田上観音堂において大数珠回しの行事が行われました。まめだかなからは、利用者さん四名と職員四名で参加しました。

堂内には囲炉裏が二つ切っており、炉のまわりにゴザが敷かれていました。参加者は囲炉裏を囲むようにゴザに座り、大数珠の登場を待ちました。奥の方から大きな木箱が運ばれてきて、その中から、まるでゴザの寝床に大蛇が這い出すかのようように大数珠が引き出され、参加者の手に渡りました。



数珠の玉は野球ボール位の大きさの木で出来ていて、長さ十メートル余り一〇八つの数珠が連なっていました。

した。大きな数珠は案外軽く、一〇〇歳越えの利用者も難なく持てることができました。

鉦の音にあわせて「なんまいだなんまいだ」と皆で

唱えながら、右回りに五回まわして、先祖の霊を慰め、無病息災、安泰繁栄を祈願しました。親子連れが多くにぎやかな雰囲気の中で、大数珠回しが行われ、行事が終わると皆さん一緒にお茶を飲み、楽しいひと時を過ごすことができました。



駐車場から田上の観音堂まで、急な坂道もあるあぜ道を歩きましたが、高齢にもかかわらず利用者さん達は、しっかりと足どりで歩くことができました。天気にも恵まれ、年に一度の地域の行事に参加でき、地域住民の方々ともふれあう機会となつて、とてもよかったです。

また、翌九月二十四日(日)には、利用者さん九名の全員参加で大下条保育園の運動会へ、見学に行きました。利用者さんは終始笑顔で、無邪気に飛び回る園児達を見ながら、手拍子で応援していました。(林 大介)

サルビア通信

大盛況！ 秋祭り週間



十月十七日から二十一日の五日間、サルビアとのどかは合同で、毎年恒例の「秋祭り」を行いました。

今年もクラブやグループの方々をお呼びして、催し物をしていただきました。
初日は、シルバー歌声サークルの「しゃくなげ会」のコーラス発表でした。とてもキレイな歌声で、利用者さんのみならず、職員も聞き入っていました。
火曜日は、中津川から「星のコンサート」という、エレクトーンを使つての演奏者さんがやってきて、利用者さんが知っている曲を演奏してくれました。
水曜日は、飯田市上



郷より「千菊会」が来訪、利用者さんと一緒に歌ったりハンドベルを鳴らしたりと、皆で楽しむことが出来ました。
木曜日は、社協で調理を担当している勝又さんが所属している「詩吟クラブ」の皆さんが、扇を使つて舞をする「扇舞」や吟に合わせて大きな紙に筆を使つて歌詞を書いていく「書道吟」等、力強い出し物ばかりでした。最後は、寸劇の「大きなカブ」で皆さんを楽しませて下さいました。
秋祭り最終日は、下條村の舞踊クラブ「はなみずき」の色鮮やかな衣装と華麗な踊りで魅了した後、社協の太鼓クラブ「おひとよし太鼓」が、締めにくわしい太鼓演奏をしてくれました。今年は何と、小さな獅子舞も飛び出しました。
この一週間とても充実し、利用者の皆さんにも喜ばれる秋祭りになりました。また来年の秋祭りをお楽しみに！
(木下歩美)

若葉通信

ちらし寿司作りに挑戦



去る九月二十二日、利用者さん皆でちらし寿司をつくるというのを聞き、お裾分けに与かろうと、取材を口実に出かけてきました。
当日は秋晴れの良い日和で、女性ばかり十一名の利用者さん達が集まりました。玄関を入ると、ぷーんと良い香りが漂ってきて、お腹がグーとなりました。部屋の戸を開けると、気さくそうなおばあちゃんが、「あにいま、よう来たな、こつちにおいなんよ」と、席へ誘つてくれました。職員が用意した材料・道具類を使つて、タマゴを焼く人、具材を切る人、食器を用意する人などなど、誰が指図するともなく、うまく役割分担がなされていました。皆さん立ち上がり、おしゃべりをしながら、

材を混ぜる段になると、うちわをもつてパタパタとあおいでいました。
さあ、出来上がり、私を含めて十二人分を平等に盛り付けて、一緒につくった汁もお椀によそつてくれました。そこで、一人の方が、「あれー、みんなの分が無かったな」「こりゃーいかにいかに」と各人よそった器の中から少しずつ取り分けて、二名の職員分を作りました。職員等は、自分はお弁当を持つてきているから大丈夫ですよと言いました。が、利用者さん等は、口を揃えて「そんなわけにやいかん、食べにやいかん」と有無を言わせませんでした。
何と心根の優しい方々だろうと、ちらし寿司をいただきながら思いました。さて、お味の方は？・・・言わずもがなです！
(井澤 博之)

●おゆずりください！

・・・不要な布類・衣類がごございますか？

皆様こんにちは、グループホームまめだかなです。日ごろ地域の皆様におきましては、当所の活動へ大変ご理解をいただき、感謝申し上げます。
当所では、ご利用者の日々の暮らしに多量の布類（ウエス）を使用しています。現在、それが不足ぎみで困っております。各ご家庭において不要になりました衣類やタオル類などがございましたら、お譲りいただければ幸いです。出来れば、木綿のものが良いのですが、化学繊維のものでも喜んでお受けいたします。
お手数ですが、阿南町社会福祉協議会（田上・サルビア）または、グループホームまめだかな（田上・サルビア下）までお持ちいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

おもちゃ図書館年末年始休館のお知らせ

日頃はたくさんの方にご来館頂き、誠にありがとうございます。年末年始に伴い、以下の期間は休館日とさせていただきます。
12月23日(金)～平成24年1月13日(金)
なお、来年最初の開館日は1月17日(火)となります。
予告：来年2月に、節分会(年取り)イベントを開催予定です。詳細は、年明け1月1日号の広報でお知らせいたします。楽しみに！

編集後記

何か趣向を・・・との一〇〇号記念の予定が、従来通りの紙面構成となりました。期待を下さっていた皆様には、沿うことが出来ず悪しからずでした。秋はイベントの季節、諸々の行事に追われて右往左往している内に、目玉を考える間もなく発行となりました。奇をてらってみたところで、己の非力に恥じ入るのみ、まめな人達を見習ってコツコツと生きる術を身につけなくては！（井澤 博之）

ちよいと一句

デイサービスのご利用者様が作った句をご紹介します。

「ちよいと一句」

「芸術の秋」

です

サルビアの俳句づくりの時間に素晴らしい作品ができました。

たくさん

●秋の空

とんぼ飛び立つ 稲穂かな (M・Aさん)

〈サルビアで俳句をやった日に家で作ったよ〉

●霧立ちて

山並みしばし 絵の如し (M・Mさん)

〈めったにない、いい景色が見えた日に〉

●空いっぱい

はなでにぎわう 秋祭り (S・Wさん)

●油炒り

ヘルパーさんに あまえんぼ (K・Tさん)

〈ヘルパーさんが軟らかくつくってくれるんだに〉

●赤とんぼ

飛んで行きたい母のそば (K・Tさん)

〈叶わぬ夢はあるけれど、トンボになって亡き母の所へ行き、思いっきり手を握りたい〉

平成23年度社協会費の納入にご協力をお願いします

平素は当協議会の事業にご協力いただき、誠にありがとうございます。

今年も社協会費の納入を行ないたいと思いますのでご協力をお願い致します。なお、詳細につきましては当広報紙と一緒にお届けした、別紙通知をご覧ください。

また、お問い合わせは通知にある担当までお願いします。結果は次号にてお知らせします。

